

土浦市民憲章

昭和50年12月23日制定

- 1. 互いに信じ 助けあう
あたたかいころをそだてましょう
- 1. からだをきたえ 仕事にはげみ
あかるい家庭を ぎずぎましょう
- 1. 自然を愛し 水とみどりの
きれいなまちを つくりましょう
- 1. 知性を高め 教養をつちかい
文化のみりを ひろげましょう
- 1. 伝統をふまえ 未来をみつめる
若い力を のぼしましょう

一中地区市民委員会



発行・編集者：一中地区市民委員会・文化広報部会 発行日：平成29年3月15日（水）
 事務局：一中地区公民館内 TEL：029-821-0104
 世帯数 10,417戸 人口 19,435人（平成29年2月1日現在住民基本台帳による）

土浦小学校 作品展



たまき合唱団



ふれあい
学びあい
第23回

一中地区 公民館 まつり

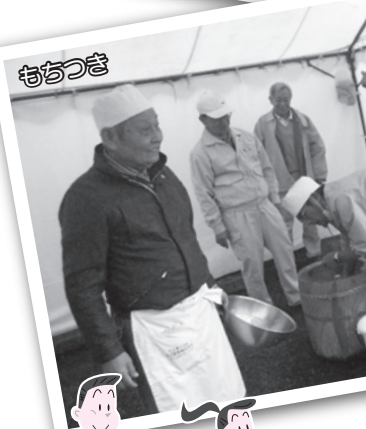
平成28年11月13日



スーパーボールすくい



フリーマーケット



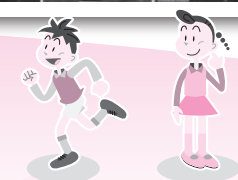
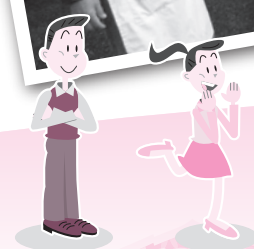
もちつき



空き缶・ペットボトル回収



お囃子 櫻ばやし連



避難困難者防災訓練



生田町地区長
齊藤 幸好

最近地震や水害など頻繁に発生しております。従来の防災訓練は初期消火訓練を中心とした訓練でしたが町内総会において高齢化が進んでいる町内の実情に沿った訓練をしたいとの意見があり、十月四日に自主防災会長と町内会三役との打合せ会議を開催致しました。

避難訓練者特定、避難場所確認、訓練内容、避難機材確保などを協議致しました。これら協議に基づいて災害発生時に自力での避難困難な方に対し地域支援を積極的に提供するために、各班長さんに班内の避難困難者の状況を把握して頂き十月三十日班長会議に参加して頂きました。会議にて要支援者を確認した後、町内役員、防災会長、民生委員等により家庭訪問し防災訓練等の趣旨をお話し協力要請致しました。

町内会の高齢者組織紫峰会、子供育成会等に協力要請をし、炊き出し訓練は、子供育成会が実施することになりました。生田町自主防災会長名により土浦消防本部消防長に自主防災組織訓練実施についての依頼、計画書を提出致しました。

以上に基づいて十二月四日九時か

ら実施する生田町防災訓練についての回覧を配布致しました。

「三日の訓練状況」

九時に町内会役員、防災会役員、支援者の皆さんが集合し要援護者宅に支援行動し、車いす等を利用して公民館に避難して頂きました。参加者は高齢者等を含め六十名の皆さんが参加されました。子供育成会の皆さんの炊き出し作業も開始されました。

その後、消防署の皆さんによる災害時の避難講習を実施致しました。

AED体験実施、水害・地震・火災時の避難先等について講義等。

反省会において参加者からの意見でAED器具は公民館に常設しないのか、公民館に車いすが乗り入れ出来ないとか、班長さんが不在時の対応、防災スピーカーが聞こえない等の意見があり町内会としてそれらについて今後対応していきたい。

自主防災会として初めての要援護者への支援者協力による避難訓練は事故もなく終了できたのも、町内の皆さんの共助の力だと感謝していただきます。

避難用機材・車いす三台を東海林茂氏、車いす一台・補助杖一台・買い物用補助機一台を高野悦子氏より寄贈頂きました。貸出をしておりますのでご利用ください。

町内会まちづくり



千束町地区長
四栗 治

千束町は、百五十世帯強の非常に小さなまちです。マンション等は管理人が町内会員として登録されるため、個人世帯の町内会会員の参加は、百数十世帯と言う小規模でまちが運営されています。

町内は世帯の流動性が非常に低いため、他のまちより高齢者の割合が多く、子どもが非常に少ないまちです。住民が少ないため、町内には育成会と千束クラブ（高齢者クラブ）の二つの会しか存在しません。青年・壮年会や、母の会等はありません。

町内活動をこの二つの会が支える形となっています。二つの会しかありませんが、それなりに町内会が運営されています。市民体育祭などは人が少ないなりに楽しく参加し、祇園祭礼もそれなりの対応が出来ています。

一昨年に育成会の有志で作成した獅子屋台が壊れるまでは、人が少なく苦労しましたが、楽しく町内を巡行し祭礼を盛り上げていました。数年前からは、子ども達と高齢者が楽しめる合同イベントを始めました。夏のラジオ体操、敬老の日に合わせた催し物などを開催しています。今年は大ホールアートを老若男女で

楽しみました。年末には餅つき大会も実施し、多くの方々に参加頂き盛り上がりました。最近では、餅つき大会に親が参加していると言う事で、子どもの時町内で過ごし巣立つた方々などもイベントに参加しはじめています。高齢者にとつて、孫と過ごす楽しい時間を持って頂いています。最近、まちが少し変わりつつあります。本来あるべき『正しい』、『公正にする』より、『楽しい』、『楽をする』を優先する風潮がこちらに見受けられます。いま時代が大きく変わるうとしており、まちづくりが難しくなりつつあります。小さく人が少ないまちが、これ以上劣化しない様に、まちづくりの運営方法を見直す時期にきているかもしれません。これからも、よりよいまちであるために、まちづくりのあり方を模索し続けるつもりです。

チャレンジクラブ
子どもは地域の財産

指導員

泉 恵之

市民委員会青少年育成部の主たる活動として、「チャレンジ活動」があります。土浦第一中学校区の小学四年生～六年生及び中学一年生を対象に募集を行い、三十名のクラブ員で活動を行っています。年間十回の活動があり、今年度は次のとおり実施しました。

ザリガニ釣り▶



◀霞ヶ浦で
カヌー体験



- ① 開講式とプランター作り
 - ② 大洗科学館見学と洵沼公園散策
 - ③ 一中地区の自然環境調査
 - ④ 霞ヶ浦でカヌー体験
 - ⑤ 古典芸能・能楽体験
 - ⑥ ザリガニつりと焼きそば作り
 - ⑦ 公民館まつりのボランテニア
 - ⑧ 光のオブジェ作り
 - ⑨ JAXXA・エキスポセンター見学
 - ⑩ ケーキ作りと閉講式
- 子どもたちの活動の様子を見てみると、それぞれの個性がうかがえます。何事にも即座に行動する子、じっくり考えてから行動する子、しっかりとした考えをもって取り組む子など、これら全ての子どもたちが将来、社会で活躍する存在であり、地域の担い手となるわけです。

子どもは、家庭の中で育てられ、学校という集団の中で培われ、そして地域の中で見守られながら成長します。チャレンジクラブの活動にもねらいがあり、大局的には次の三点の育成を目標としています。

- いつも元気にあいさつする子
- どんなときでも友達を大切にする子
- どんなことにも思い切って挑戦する子

チャレンジクラブの活動に際して、青少年育成部の正副部長さんを中心に部員の方々の力をお借りしながら活動を続けています。地域の財産となる子どもたちの見守りや指導をいただき、常に元気はつらつと、興味津々の子どもたちの支援をしてくださっています。お蔭様で子どもたちは安全に、そして楽しくチャレンジクラブ活動を行うことができています。この場をお借りしまして皆様方に感謝を申し上げます。

一中地区公民館の玄関に、チャレンジ活動の様子が分かる「チャレンジだより」が掲示されていますので、公民館に来ていただいた折には足を止めて読んでみてください。

同好会だより
ラタンの会

保木元智香子

平成十八年、春の公民館講座が

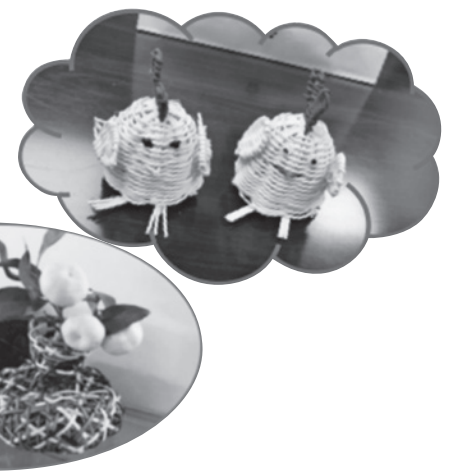
きっかけで、その年の秋ラタンの会が活動のスタートを切りました。

手さぐりの状態では何をしたらいいのか、迷い迷いの連続。一人ひとりのアイデアや、その時々々の想いを少しずつ紡ぎつないで気が付けば十年目を迎えていました。この間には、人の移動は多少有りつつも、現在十一名の方が在籍活動をしています。会長と言つ責任を背負って下さっている方、会の切り盛りをして下さっている方、それを支える会の皆様方に支えられての十年です。

寄り道をして立ち止まったりと、のんびりした会ですがこれがなかなかどうして、確実に皆成長しつつあるのがわかります。その成長が見えるのは年一回の公民館祭りを見ていただければ…と思います。

ラタンの会の皆様も出来上がったアクセサリー等を身に付けて来るとわくステキ！と仲間同志の楽しそうな声が上がります。色々な御稽古事それに参加されている方がそうであるようにラタンの会の皆様も一つ一つ自分だけの大事な物を形にして行く作業の中、技法を学ぶだけではなく、仲間との交流を楽しみながら自分を成長させています。何よりもあらゆる事を楽しんで何事にも取り組める事が「良い！」を生み出せる原動力になっているように思います。

創り出す苦しさ、考え悩む時間もも出来上がった時の感動を楽しくこれからもラタンの会らしくゆるく



ゆるく、しかし確実に進んで行ければと思っています。

遅くなりましたが、活動をスムーズに進めて行く上で、公民館の方々にはいつもお世話になりありがとうございます。今後ともよろしく御願ひ致します。

同好会だより
気負わず 気軽に楽しく

飯山 一之

皆様、こんにちは、土浦ウクレレ同好会です。

今回、広報紙「亀城」の貴重な紙面をいただきまして、誠に光栄です。つたない文章ですが、笑ってお読みください。

それでは、私たち土浦ウクレレ同好会の活動状況をご報告します。

私たちはこよなくウクレレそしてハワイアンを愛する、また、楽しむグループです。

グループ名は正式には「ホクラニハワイアン」と申します。

「ハワイの満天の輝く星」という意味でしょうか。

一中地区公民館3階の学習室で毎月第二・第四土曜日を定例として、午後一時から練習会をしています。

会員は二十名ほどで練習には毎回十数名参加しています。

会員にはウクレレ歴二十年以上のベテランの方や十年程度の中堅の方そして私のような一年に満たない初心者まで千差万別ですが、その中で女性の会員が多いこともあり、和気あいあいと教え教わりながら毎回楽しく練習しています。

練習時間は二時間程度ですが、練習の合間に雑談あり、近況報告ありおやつあり、と楽しく話しながらウクレレを練習しています。

会員の中には、ウクレレだけではなく、フラダンスの踊手、オカリナの奏者、尺八の名手、スチールギターの弾き手など多種多彩な技を持っている方もおられ、定例練習会以外にも年に数回、福祉施設の訪問や他地区の発表会に参加するなどの活動をしています。

昨年の十一月に開催されました一中地区公民館祭りでは、当ホクラニ

ハワイアンも歌とウクレレ演奏そしてフラダンスを交えて参加しました。

初心者の私も身の程知らずで参加してしまいました。少しくらい間違ってもみんなと一緒に演奏でしたので、楽しく歌い演奏できました。

このような楽しいアットホームな会ですので、また、私のようなウクレレ初心者もおりますので、やったことないけど、なんかウクレレでもやってみたいなと思っている方は、ぜひ一中地区公民館まで練習会を見にいらしてください。

ウクレレ好き、フラ好き、話好き、そしてハワイ好きの楽しい仲間が心よりお待ちしております。

それでは、アロハ・・・。



同好会だより 葦の会

相澤アヤ子

年を重ねる毎に、月日の流れは早くなると昔耳にしていた言葉が、今実感となつている。あつという間に会も十四年、改めて考え深い月日に頷き合う会員達。何でも相談出来て、又信頼できる深い絆も出来た。巡り合わせに感謝する。そして有難うの一言を添えたい。

十年一昔という様にそれぞれの家庭の状況も変わり老老介護、認知症等他人事ではなくなってきた。

最近、就活、婚活、終活という活字が眼に付くようになったと思つたら、涙活というイベントも二、四年前から企画されて幅広い世代に広がっているのだそう。何の事かと思つたら、人前で思いつき泣くことらしい。ある処で行われた四百組以上の夫婦の離婚式で泣いた後、すっきりした表情の男性が多かつたのがきっかけとか。

想像すると何とも不気味に感じるが泣くことでリフレッシュしてストレスも軽減するというのなら素晴らしい発想だ。しかし、大勢の集まりの中で泣くなんて、ちょっと私には無理なこと。時代の変化、考え方について行けない。

先日、暫く振りに電車を利用して驚いた。殆どの方がスマートフォン



片手に自分の世界に入っていて声も掛けられない状態なのだ。それが今の時代の普通なのかも知れない。

多忙な生活、情報化社会の進展などで現代人はストレスを感じ易くなっているという。

泣きたくなつたら大声で泣いて、災害や老後の不安など、笑い飛ばして元気に明日へ繋ぎたいものです。

そしてボランティア仲間の葦の会もまだまだ元気、会食で作る献立、反省などタイムも賑やかだ。

亡くなられたお母さんが織つてくれたと懐かしい縞柄の反物を広げどんなデザインにしたら良いかななんて、隣の席からはこんな派手な柄、家の中でしか着られないね、等の声。

作品も数え切れないほど出来上がった。残された人生、自分なりに心豊かに過ごしたいと思うこの頃である。

今日こんな活字が眼に止まった。

初めてロボットがスタッフとして働いたとしてギネス世界記録に認定された長崎のホテル。宿泊手続き、荷物運び、窓ふきに人間や恐竜の姿をしたロボット達が居るといふ一九四台のロボット、裏方で働く人間はわずか八人とか、少子化の時代これからどうなっていくのか想像もつかない。せめて自分の健康は維持しなければと、日々過ごしている。

輝の母の紡ぎし絹衣

波風をまてず余生の茶種蒔く

同好会だよ
油絵同好会「秀画会」
塚越 孫治

本会は一中地区公民館で開催された油絵講座の受講者が中心となり結成されました。講師は高橋秀先生です。

「秀画会」の名称は高橋秀先生の「秀」の字を使用させて頂きました。

会の結成後、二十数年となりメンバーの大部分が入れ替わりましたが、現在会員は十二名で先生も高橋秀先生です。月四回火曜日午後一時から午後四時位まで一中地区公民館で例会を開いております。

四回の内二回は高橋先生のご指導を頂いており、技法や絵の科学的な根拠等も説明され、適切なご指導を頂いています。

会の主な活動としましては、毎年一回会員全員による「秀画会展」を開いています。

今年も三月初旬新都市建設(事)(同峰公園)において開催します。又土浦市展その他の公募展等に出席しております。



会員には土浦市展の委嘱者も数名おり会員同志で意見を出し合い和気あいあいと学習しています。

長年一緒に活動していますが、各々個性があり同じ絵はありません。本会は新しい会員を募集していま

す。老若男女、ベテラン、初心者气和気あいあい楽しく絵を描いております。気軽に教室を見学においで下さい、お待ちしております。

みんなの広場

忘れられない体験

桜町四丁目 青山 和義

人生八十年いろいろな経験をしてきました。夢の中にも繰り返して出てくる忘れられない事があります。

それは小学校一、二年での戦争体験と予科練生に関わるつらく悲しい出来事を目撃したことです。

私は、東京都葛飾区金町で生まれ、昭和十九年に小学校に入学。一学期までそこで過ごしましたが空襲されるようになり、父の実家である市内の大岩田に疎開してきました。しかし、大岩田は農村地域でしたが海軍航空隊のある阿見町に隣接してしましたので、その影響を受けました。

私の戦争体験は、阿見町の軍事施設が爆撃された日のこと、飛行機が去って一時間ほど過ぎたので近所の人三、四人で田んぼの中にある畑へ野菜を取りに行きました。すると突然グラマン戦闘機が一機現れ、機銃掃射しながら急降下して我々の方へ向かって来ました。咄嗟に身を伏して難を逃れました。また、別の日は家の田んぼに爆弾が投下され、その時は防空壕の中にいましたが、入

口の扉が爆風でガタガタと振動し防空壕が崩れるのではないかと不安になりました。

予科練生に関するものでは三つの出来事が記憶に残っています。

第一は、予科練生が土浦駅往復のマラソンを行っているのをよく目撃していましたが、ある時、最後尾をふらふらになって走っている生徒を、自転車で乗った教官がムチで尻をたたき気合いを入れていました。大変かわいそうになりました。

第二は、予科練生が腹がへつていたので食物を下さいと何回か我が家へ二、三人でやってきたことです。母が腹がへつては戦は出来ないねと言つて、ふかしたさつまいもやおにぎりを与えていました。ところが時々憲兵が見回りに来ることがあり、その時は押し入れなどに隠れていました。

第三は、予科練生が避難していた防空壕が直撃弾を受けて二百人以上が死亡し、近くで茶毘に付され、それを目撃したことです。近寄らないよう注意されていましたが好奇心で友人と見に行きました。しかし臭いのすさまじさにすぐ引き返しました。私達は太平洋戦争を自覚できた最後の世代と言われています。戦争を知らない人が大部分となり歴史は繰り返すと言われるように、また戦争が始まるのではないかと不安に思うこの頃です。

さくら俳句会

(十二月と一月の句会作品より)

初暦掛けて起き伏しかるくなる

荒木小夜子

初春や今年は翔ける年女

田口よし子

初雪に自分史たどる一夜かな

深谷 由子

幼子の英語片言初笑い

矢野 澄枝

宛名だけ毛筆で書く賀状かな

矢野惣四郎

小寒や入日野仏の影をひき

若松 明子

正月や曾孫の帰るばば涙

藤川 祐子

短歌・俳句

世の生死凝視め来りて残生の身に

煌ける何ものもなし

荒木富美子

命のかぎり生きてゆきたし

老いたればてらいなく歌う「愛の讃歌」を

井上 寛江

辛夷こぶしさき木蓮がちり奉めぐる

桜ふぶきのこの淋しさよ

金丸 玉貴

子らに嫌わる蓮根しやつきりもつちりと

ハンバーグの妙かえって喜ぶ

櫻井 雅江

緑児の握りてやわく湿る手に未来は何を与え給うか

齋藤 順子

ひとり咲きひとり散りゆくさくら花

あなたの孤独が甦る夜

桑田今日子

水脈ひきて五羽の鴨ゆく桜川逆立ちすれば冬日こぼるる

瀬古澤和子

霜柱ザクザク踏んで駆ける子と尻尾をふりふり伴走る犬

柴沼 恭子

早朝の散歩で犬も白い息

柴沼 恭子



編集後記

春の若葉が芽を吹き始め、爽やかな風が頬に感じる今日この頃、皆さまにはお元気にお過ごしのことと思います。

さて、今期発行の「亀城」三十二号から、読みやすい広報紙となるようカラー刷りと致しました。

また、寄稿頂きました皆さまには編集委員一同心より感謝申し上げます。

(本号の編集担当者)

新井 幸男 / 田中久美子

岡部 恒文 / 進士 武之

梅木 逸夫 / 小野村一博

横山光栄